

# 美しい湾憩いの場に

「海の貴婦人」と呼ばれる帆船・海王丸の背景には、巨大な新湊大橋と立山連峰——。海王丸パークは、射水市のシンボルとして人々の憩いの場になっている。

開園したのは1992年。商船学校の大型練習帆船として30年から活躍した海王丸が89年にその役目を終え、90年4月に富山新港で一般公開されたことがきっかけだ。

海王丸の誘致には地元県議ら多くの人が関わったという。公益財団法人伏木富山港・海王丸財団の蟹谷康弘事務局長(59)は「現在の射水市に商船高等専門学校があったため、海王丸に乗船したことがある人も多くいた。そのため『ぜひ富山に』という熱い思いがあったようです」と語る。

海王丸パークのオープン後、来場者に海を身近に感じてもらうため、年に約10回、海王丸の29枚の帆を広げる「総帆展帆」を実施したり、小中学生が海王丸に

## ふるさと写真館



宿泊し、海上生活を学ぶ海洋教室を開催したりしてきた。

2012年に新湊大橋が完成すると、それまで年間約5万人だった海王丸の乗船者数は約7万人に増え、県内外から多くの観光客が訪れるようになった。

## 海王丸パーク (射水市)

海王丸パークはデートスポットとしても有名だ。2月14日に海王丸が進水したことから、13年には「恋人の聖地」に選定された。同財団はこれをきっかけに、船上で結婚式ができるイベントや、願いを込めてハート形の鍵を船内に取り付けられるサー

ビスも始めた。射水市戸破の主婦中野ありささん(26)は「夜はライトアップされてとてもロマンチック。デートの場所にぴったり」と話す。

18年には海王丸の乗船者数が200万人を達成。現存する最古の国産練習帆船として、公益社団法人日本船舶海洋工学会から「ふね遺産」の認定を受けた。

蟹谷事務局長は「パークは来年の秋に開催される『世界で最も美しい湾クラブ総会』の会場にもなっている。すばらしい景色と海の歴史を多くの人に感じてほしい」と話している。(三浦ちひろ)

## むかし

1990年代前半の海王丸パーク(公益財団法人伏木富山港・海王丸財団提供)



現在の海王丸パーク。新湊大橋が開通し、景観は大きく変わった(公益財団法人伏木富山港・海王丸財団提供)

いま